

こそそと開かれる

この会議、23日開催であったが、そのことが県から米子市等に公表されたのは19日、米子市から議員に通知があったのは21日（開催2日前）、時間帯は朝の9時から。いかにも住民には来てほしくないような開催の仕方。県のこの会議に関しての住民への姿勢が見て取れる。

地下水についての議論なし

専門分野	氏名	役職
廃棄物処理工学	松藤敏彦	北海道大学大学院工学研究院 環境創生工学部門教授
環境システム工学	中山裕文	九州大学大学院工学研究院 環境社会部門准教授
生物地球化学	角野貴信	公立鳥取環境大学環境学部 環境学科准教授
水管理(地下水)	北村義信	鳥取大学国際乾燥地研究 教育機関特任教授

上記は、この専門家会議のメンバー。地下水の専門家も含まれている。この北村教授は、住民側も地下水の議論には欠かせないと専門家会議の委員として推薦していた方。

専門家会議の中で、地下水についてどのような議論がなされるのか期待されていた。

ところが、…………

当日、北村教授はなんと「欠席」とのこと。県はその理由も明らかにしないまま、会議が開催された。欠席であることがわかりながら会議の開催を強行した。**当然、地下水に関する議論は一切なし。**

形だけ、地下水の専門家を含む「専門家会議」と見せかけて、実は議論をしないまま表面の新聞報道のように「専門家の見解：問題なし」を市民にアピールすることが目的だったのか！？

「会議」とは名ばかり

当日は、県による急な決定を知って住民たちは、平日朝9時からの開催にもかかわらず、専門家たちの間でどのような議論が交わされるのか注視するため、なんとか都合を付けて傍聴に出かけた。

ところが、…………

専門家どおしの議論は全くなし。当日出席した3人の「専門家」は、「計画されている産廃処分場は安全で、何の問題もない」との見解で、はじめから一致しているみたい。県はそういう人たちを専門家として選んで、来てもらったみたい。遠くは北海道から、九州からも。

当日、何が行われたかというと、「会議」ではなく、「傍聴者に対する説明会」。それも一方的な。

私を含めての傍聴者に対して、計画されている処分場がいかに安全かを延々としゃべるだけ。その内容に対して、疑問の声をはさもうものなら、司会進行の循環型社会推進課の山根課長のマイクを使ってのヒステリックな声。「傍聴者は静かにして下さい！」「ルールを守れないなら退席してください！」

傍聴者のレッテルを貼り、発言を許さず、とにかく「安全である」との専門家の見解を一方的に聞かせるだけ。（これは知的拷問だ！）



「傍聴者に説明をする会議」のありようの滑稽さ、理不尽さ。このような扱いを受けた傍聴者の一人は「行政による出席者の洗脳だ」とコメントしていた。

「専門家会議」のありようの余りのひどさにに関して

私が鳥取県知事に提出した文書

2018年02月23日(金)

鳥取県知事 平井伸治 様

本日、淀江産業廃棄物管理型最終処分場計画に関する専門家会議を傍聴しました。

この会議は、産廃計画に関する周辺住民のいろいろな疑問点について、様々な立場の専門家が科学的見地から議論の場を設けることにより、その疑問点を解消しようとするためのものであると理解していました。

しかしながら、本日の会議を「傍聴」して、失望の念を禁じ得ません。

まず、わずか4人の委員で構成される会議であるにもかかわらず一人が欠席ということで開かれています。

その一人の方は、住民側が推薦して、その方を含めた議論が聞きたいと思っていた方です。

なぜ、一人の方の都合が悪いにもかかわらず、本日の会議を設定したのですか？

また、本日の会合は、「会議」と言えるものではなく、単なる「説明会」に過ぎませんでした。

私は、あくまでも、「産廃計画に関する周辺住民のいろいろな疑問点について、様々な立場の専門家が科学的見地からの議論」を、傍聴するために来たのです。専門家の間で、そのような議論は一切なされませんでした。

もし、専門家による、住民に対しての説明会として開催するならば

1.事前の告知を、期間をかけて十分にすべき

2.資料は、事前に配布すべき

3.直接やりとりできる質疑応答の時間を、十分に設けるべき

です。

今日の会議の進行では、私たちを傍聴者と位置づけ、発言は一切許さないまま、一方的に話を聞かせる会に過ぎませんでした。

このような会を開いても、この産廃問題の様々な住民の疑問点を解消することはできません。

改めて、この計画に対して、住民が不安に思っている事柄・課題について、いろいろな立場の専門家の間の議論の場を設けることを要望いたします。

米子市議会議員 土光ひとし

本日、米子市長に見解をただします

本日（8日：木曜日）の米子市議会の私の各個質問で、鳥取県がこのような理不尽な「専門家会議」を開催して、安全のお墨付きを得たとして計画実現に向けた手続きを進めようとしていることについて、米子市民の安全・安心を守る立場である米子市長に見解をただします。

表面の意見書にあるように、米子市は「地下水についての懸念」など安全性に関して十分な議論、そして地元住民に対してのていねいな説明を県に要望しているのですから。



昨年12月議会の各個質問の様子

※私は4番目ですので、質問開始時刻は2時頃になると思われます。前の3人の質問の時間に左右されますので大幅に前後する可能性があります。

(中海テレビ、インターネットでのライブ中継あり)